

たんばやきの ふるさと

十月の 土曜日、ぼくは お父さんと とうきまつりに 行きました。

お店には、たくさんの おさらや お茶わんが ありました。よく 見ると  
どれも 形や 色が ちがいます。

「これは みんな たんばやきと 言って、ここで 作られた ものなんや。  
ずっと むかしから つたえられて きとる、日本でも ゆう名な やきも  
のなんやで。」

と、 お父さんが 教えて くれました。

ここの お店の やきものは ぜんぶ 篠山市 今田町で つくられた  
ものだ と 知り、びつくりしました。ぼくの すんで いる 町の すぐ 近  
くだったからです。

ぼくは、一年生の 図工の 時間に ねん土で しっぽが ぎざぎざの きょうりゆうを 作りました。やきものになつて とどいた 時、とてもうれしかった ことを 思い出して いました。

すると、お店の おじさんが、

「どうや、ぼく。土の かたまりが 人の 手で こう なるんやで。のぼりがまを 知つとるか。長い 土の トンネルの 中で たき木を もやしつづけると こんな 立ばな やきものが できるんやで。」  
と 教えて くれました。

「のぼりがま？」

ぼくは のぼりがまを 見て みたくなり ました。帰りに お父さんにおねがいして のぼりがまの ある ところに つれて行って もらいました。

道に そつて たんばやきを 作る お店が たくさん あります。

「この お店は かまもとや。かまもとには やきものを やく かまが あ  
るんやで。」

お父さんと ぼくは、この かまもとで、のぼりがまを 見せて もらう  
ことに しました。

「うわ、すごく、長い！」

かまの 中を のぞきながら、ぼくの きょうりゅうも 火の 力で たん  
ばやきに へんしんしたのかと 思いました。

「たんばやきに きょうみを もったみたいやな。うちで 毎日 つかつとる  
お茶わんも たんばやきなんやで」

「えっ、ほんま？」

ぼくは なんだか うれしく なりました。

「今どは 立くい すえのさとに 行ってみよか。小学生の とうげい教室が  
あつて、自分で 作れるんやで。」

と、お父さんが 言いました。

ぼくは、お店で 見たような やきものを もう一ど 作って みたいと 思いました。

「うん。行って みたい。」

「たんばやきは ふるさとの 自まんや。どんな ものでも ええから 土を こねて 作って 見たら ええわ。」

と、お父さんは 言いました。

ぼくは、お母さんに でき上がった ゆのみを わたしながら たんばやきを 自まんして いる 自分を そうぞうしました。

本資料の著作権は兵庫県教育委員会に帰属します。  
本文のすべてまたは一部について無断で複写して使用することを禁止します。